平成 21 年度　秋期　情報セキュリティスペシャリスト試験　採点講評

午後Ⅱ試験

問１

問 1 では，ID 連携を含む，認証・認可基盤の統合について出題した。全体として，正答率は低かった。

設問 1 は，a 及び c の正答率が低かった。SAML 及び HTTP の標準仕様の中で定義された用語を理解していないと見受けられる解答が多かった。具体的な製品仕様や技術の表層的な理解だけではなく，その標準仕様の全体的な理解も深めてほしい。

設問 2(2)は，正答率が低かった。本文に記述された状況から想定される具体的な問題点を問うたが，削除されずに残った利用者 ID やアクセス権が“悪用される”,“不正アクセスに使われる”といった，あいまいな解答が見受けられた。

設問 3 は，全体では想定どおりの正答率だったが，(4)の運用見直しの内容の正答率は低かった。ID 管理及びアクセス管理においては，異動・退職といった変更を情報システムに即座に反映させることが重要である。しかし，図 7 に示された方式を説明しただけの解答，図 7 と矛盾する内容の解答が見受けられた。また，“適切に管理する”といった，あいまいな解答も見受けられた。

設問 4 は，正答率が低かった。本文及び設問でそれぞれ“個々の業務システムのシステム改修”,“営業管理システムを例にとり”と記載しているにもかかわらず,“ID 体系を統一する”,“権限情報を一元化する”,“ディレクトリを統合する”といった，X 社情報システム全体に関する解答が多かった。また，営業管理システムの改修として，認証方式の変更と認可方式の変更の両方が必要であるが，どちらか一方だけに関する解答も多かった。

問２

問 2 では，ネットワークの統合を含む，社内 LAN の見直しについて出題した。全体として，正答率は想定どおりだった。

設問 2 では，DoS 攻撃を想定した場合における，UDP ポートの動的開閉の効果について記述していない解答が散見された。IP 電話については，今後，利用がますます促進すると思われるので，関連するセキュリティ対策についても理解を深めてほしい。

設問 3(2)は，正答率が低かった。残存する極秘情報を検知することの重要性を考慮して，解答してほしかった。

設問 4(2)は，正答率が低かった。環境の変化に伴い，製造サーバに極秘情報が保存されるようになったことについて，新たな対応が必要であることを理解していない解答が多く見られた。重要な情報の所在が変化する場合があり，情報セキュリティ対策の継続的な見直しと改善を図る必要があることを理解しておいてほしい。

設問 5(2)は，正答率が低かった。PEAP 方式は EAP 方式を強化したものであり，EAP-TLS 方式と共通の技術を採用しているが，PEAP 方式は利用者 ID とパスワードによって利用者本人を特定できる方式であり，EAP-TLS 方式はクライアント証明書によって PC を特定できる方式である。採用する認証方式によって，認証の対象が異なることについて理解しておいてほしい。

Copyright(c) Information-technology Promotion Agency, Japan. All rights reserved 2010